

document type

<!DOCTYPE>

文書型定義を表す

| | |
|-----|--|
| タイプ | |
| 包含 | |

<!DOCTYPE html> は、文書が HTML5 で作成されたものであることを宣言するために、文書の先頭（<html> よりも上）に記述する DOCTYPE 宣言です。

HTML や XHTML では、バージョンごとに使用できる要素や属性とそれらのルールが定められていますが、DOCTYPE 宣言は、その文書が HTML や XHTML のどのバージョンで作成されているかを宣言するものになります。

ブラウザが利用するモードを決定する

ブラウザは、文書の先頭にある DOCTYPE 宣言 を使用して、後方互換モードと標準準拠モードでレンダリング処理をするか決定します。

現行のすべてのブラウザは <!DOCTYPE html> の DOCTYPE 宣言に対して、標準準拠モードを使用してレンダリング処理を行います。

MDN Web Docs : https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTML/Quirks_Mode_and_Standards_Mode

html document

<html> </html>

ルート要素を表す

タイプ

ルート要素

包含

head 要素 body 要素

HTML 文書におけるルート要素（基点となる最上位の要素）になります。他のすべての要素は、この要素の子孫として配置しなければなりません。

lang 属性を用いて、その文書の言語を指定することで、音声読み上げツールにおける文章のアクセシビリティや、翻訳ツールなどを使用する場合の利便性を向上させます。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

xmlns

文書を XML 構文として扱う場合は、XML 名前空間を指定します。

既定値は "http://www.w3.org/1999/xhtml" となります。

NDN Web Docs : <https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTML/Element/html>

document metadata (header)

<head> </head>

メタデータの集まりを表す

タイプ

html 要素の子要素

包含

title base meta link style script noscript template

文書のタイトルや meta 要素の情報など、メタデータの集まりを表します。html 要素の最初の子要素として1つだけ使用することができます。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

MDN Web Docs : <https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTML/Element/head>

document body

<body> </body>

文書の内容を表す

| タイプ | html 要素の子要素 |
|-----|-------------------|
| 包含 | head 要素 body 要素 |

文書の内容を表します。html 要素の中で、body 要素は 1 つだけ使用できます。
body 要素の中に記述された内容が、Web ページの表示部分となります。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>body要素を使ったサンプル</title>
</head>
<body>
  ここにWebページの内容が入ります。
</body>
</html>
```

document title

<title> </title>

文書のタイトルを表す

タイプ

head 要素の子要素

包含

テキストのみ

文書のタイトルを入れる要素になります。title 要素の内容は、検索結果のページに反映されたり、ブックマークや履歴一覧などにも反映されたりと重要な役割を担っていますので、分かりやすいタイトルを付けるようにしましょう。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

Point

head 要素には基本的に title 要素を省略することはできません。

title 要素の内容は、検索結果ページのタイトルやブックマークなどに反映されたりと、非常に重要な役割を担っていますので、タイトルの内容は分かりやすいタイトルをつけるように心がけましょう。

サンプル

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>中崎町のカフェ巡り</title>
</head>
```



document-level metadata

<meta>

文書のメタデータを表す

| | |
|-----|-------------|
| タイプ | head 要素の子要素 |
| 包含 | なし（空要素） |

文書の文字コードや文書の概要、キーワードなどの文書に関する付加情報を表します。1 つの meta 要素には、name、http-equiv、charset、itemprop を 1 つのみ指定することができます。
Facebook や Twitter などの SNS 向けに OGP 情報を指定する仕組みにも使用されます。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

name

要素に名前を付与することで、メタデータの種類を示します。内容は content 属性で指定します。

http-equiv

文書の処理方法や扱いを指定できます。

content

name、http-equiv 属性と合わせて併記する属性となり、それらのメタデータを指定します。

charset

文書の文字コードを指定します。2 つ以上の文字コードを文書内で指定することはできません。

Point

文字化けやセキュリティホールが発生を避けるため、charset 属性で宣言した文字エンコーディングは、ページを保存した文字エンコーディングと一致しなければなりません。

heading

<h1></h1> ~ <h6></h6>

文書の見出しを表す

タイプ

ブロックレベル要素

包含

インラインレベル要素、テキスト

h1~h6 の各要素は、文書の見出しを表します。要素名の数字は見出しのレベルを表し、最もレベルの高い h1 要素から順番にレベルが定義されています。文書内で同じレベルの見出しがあれば、同一レベルの見出しとして扱われます。

見出しのレベルは、文章のアウトラインにも影響を与えます。

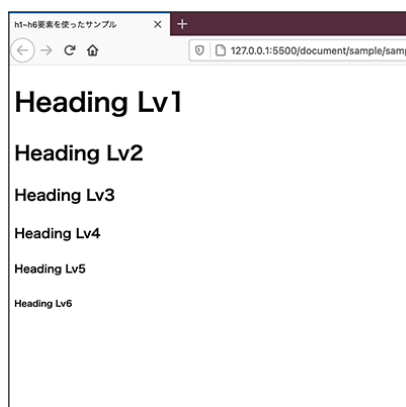
使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

Point

- ・ h1~h6 でレベルが分かれており、レベルが下る（数字が大きくなる）につれて、表示される文字の大きさが小さくなります。文字の大きさを変えるために見出し要素を使用しないようにしましょう。
- ・ 見出しレベルを飛ばさないように心がけましょう。必ず h1 要素からはじめ、次に h2、以下も同様にしましょう。
- ・ 1つの文書内で、h1 要素を2回以上使用することは避けてください。

サンプル

```
<body>
  <h1>Heading Lv1</h1>
  <h2>Heading Lv2</h2>
  <h3>Heading Lv3</h3>
  <h4>Heading Lv4</h4>
  <h5>Heading Lv5</h5>
  <h6>Heading Lv6</h6>
</body>
```



content division

<div> </div>

コンテンツの分割要素

タイプ

ブロックレベル要素

包含

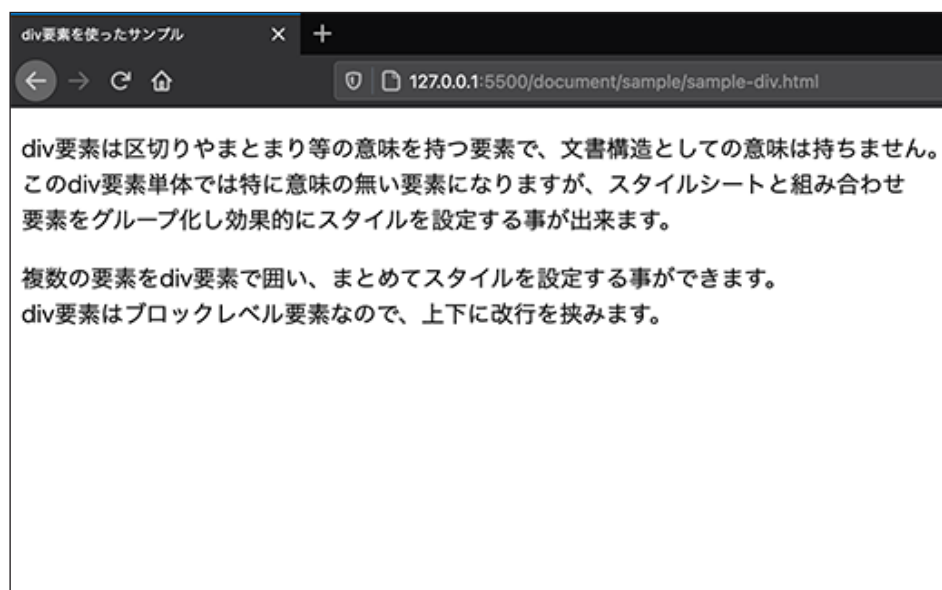
ブロックレベル要素 インラインレベル要素

要素をまとめる汎用コンテナとして用いられ、特に要素的な意味は持ちません。
CSS を用いてスタイル付けされるまで div 要素は影響を与えることはありません。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <div>
    <p>
      div要素は区切りやまとまり等の意味を持つ要素で、文書構造としての意味は持ちません。<br>
      このdiv要素単体では特に意味の無い要素になりますが、スタイルシートと組み合わせ<br>
      要素をグループ化し効果的にスタイルを設定する事が出来ます。
    </p>
    <p>
      複数の要素をdiv要素で囲い、まとめてスタイルを設定する事ができます。<br>
      div要素はブロックレベル要素なので、上下に改行を挟みます。<br>
    </p>
  </div>
</body>
```



content division

行内フレーズのグループ化

| タイプ | インラインレベル要素 |
|-----|------------|
| 包含 | インラインレベル要素 |

div 要素と同じくまとまり（グループ化）を表し、特に要素的な意味を持ちません。
CSS を用いてスタイル付けされるまで、span 要素は影響を与えることはありません。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <div>
    <p>
      文字の一部分を囲いたい場合には、同じ意味を持つインライン要素のspan要素を使って囲うことで、<br>
      文字列の<span>一部分の文字色</span>を変更したりする事が出来ます。
    </p>
  </div>
</body>
```

MDN Web Docs : <https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTML/Element/span>

paragraph

<p> </p>

段落を表す

タイプ

ブロックレベル要素

包含

インラインレベル要素

文章の段落を表します。段落は文章内で、隣接するブロックと上下の空白や行頭の字下げによって、隔てられたテキストのかたまりとして表現されますが、HTML では画像やフォーム欄などの関連するコンテンツを構造的にまとめることができます。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <h1>コンピュータ専門学校</h1>
  <p>
    コンピュータ専門学校は、大阪梅田の中崎町にあるコンピュータを学ぶ専門学校です。<br>
    同じ中崎町内に姉妹校のECCアーティスト専門学校、ECC国際外語専門学校があります。
  </p>
  <p>
    コンピュータ専門学校には、ゲームクリエイティブカレッジ、ITカレッジと、<br>
    それぞれの専門分野を学ぶことができる2つのカレッジがあります。
  </p>
</body>
```



emphasis

強調したいテキストを表す

タイプ

インラインレベル要素

包含

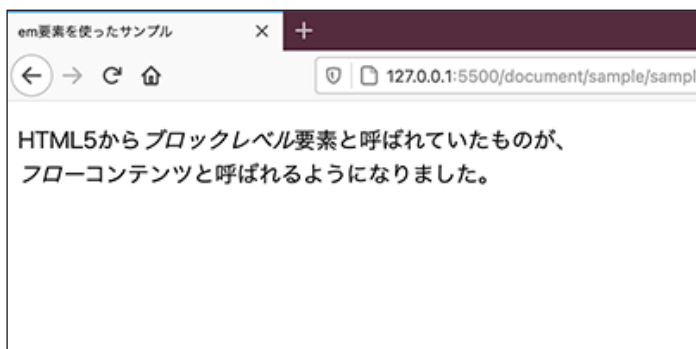
インラインレベル要素

文章内で強調したいテキストに使用します。入れ子（ネスト）にすることで、強調の度合いを表すこともできます。多くのブラウザでは、イタリック体（斜体）で表示されます。テキストを斜体の見た目にするために用いるべきではありません。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <p>
    HTML5から<em>ブロックレベル</em>要素と呼ばれていたものが、<br>
    <em>フロー</em>コンテンツと呼ばれるようになりました。
  </p>
</body>
```



strong importance

強い重要性のテキストを表す

タイプ

インラインレベル要素

包含

インラインレベル要素

重要性、申告制、緊急性の高いテキストを表します。入れ子（ネスト）にすることで、重要性の度合いを上げることもできます。多くのブラウザでは、太文字で表示されます。テキストを太文字の見た目にするために用いるべきではありません。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <p>
    <strong>ご注意ください！</strong>最近知らない番号からSMSで連絡がきますが、<br>
    記載されているURLは、クリックしないでください。
  </p>
</body>
```



side comment

<small> </small>

付随コメントのテキストを表す

タイプ

インラインレベル要素

包含

インラインレベル要素

著作権表示や法的表記、細目や注釈のような小さく表示される文を表します。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <p>学校のページにこんな記事がありました。</p>
  <blockquote cite="https://comp.ecc.ac.jp/">
    <h2>5校合同での完全リモート制作イベント</h2>
    <p>3月23日～25日の3日間</p>
    <p>
      春休みの期間を使って、神戸から東京までさまざまな各地域の学生が集まり、<br>
      学生総勢約40名の希望者が計10チームのフルオンライン制作イベントを実施しました。
    </p>
  </blockquote>
</body>
```



line break

改行を表す

タイプ

インラインレベル要素

包含

なし（空要素）

文章内に改行を生成（挿入）します。住所や詩など、行の分割が有用な場面に用いられます。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <p>
    〒530-0015
    大阪市
    北区中崎西
    2-3-35
  </p>
  <p>
    〒530-0015<br>
    大阪市<br>
    北区中崎西<br>
    2-3-35
  </p>
</body>
```

br要素を使ったサンプル

〒530-0015 大阪市北区中崎西 2-3-35

〒530-0015
大阪市
北区中崎西
2-3-35

ソースコードの改行は、半角スペースの扱いとして表示に影響を与えます。

thematic break

<hr>

段落の区切りを表す

| タイプ | ブロックレベル要素 |
|-----|-----------|
| 包含 | なし（空要素） |

話の場面切り替えや、節内の話題の転換などの段落間でのテーマの意味的な区切りを表します。
水平線として表示されますが、水平線を引くために用いるべきではありません。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <p>
    HTMLとは<em>HyperText Markup Language</em>の略で、Webページを作成するために開発された言語です。
  </p>
  <hr>
  <p>
    話は変わりますが、「同じ穴の貉（ムジナ）」の貉とは<em>アナグマ</em>のことです。
  </p>
</body>
```



block quotation

<blockquote> </blockquote>

段落単位の引用を表す

タイプ

ブロックレベル要素

包含

ブロックレベル要素 インラインレベル要素

段落単位のような比較的長い文章の引用に用います。語句単位のような短い引用を行う際は、q 要素を用います。引用したテキストは、左インデント（字下げ）を伴って表示されます。

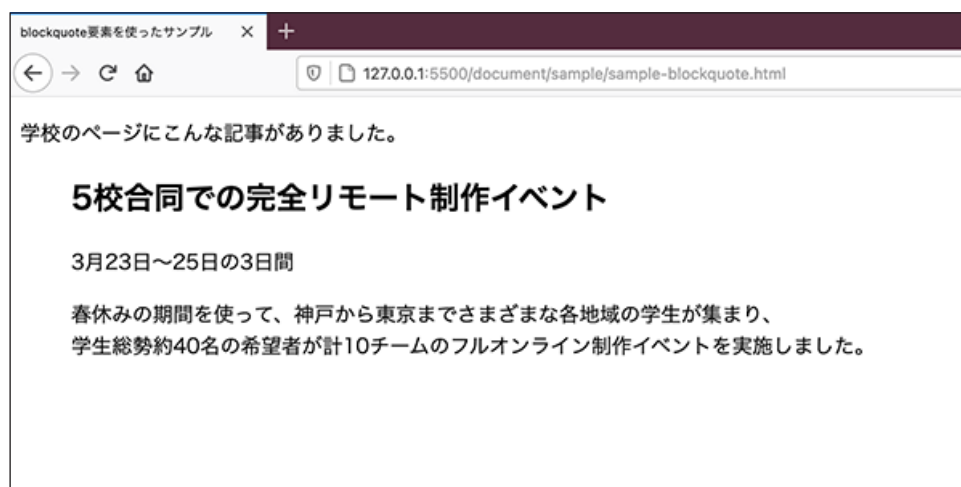
使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

cite

引用元の情報に関するメッセージを示します。引用元が Web 上に公開されている文章であれば、URL を使用します。

サンプル

```
<body>
  <p>学校のページにこんな記事がありました。</p>
  <blockquote cite="https://comp.ecc.ac.jp/">
    <h2>5校合同での完全リモート制作イベント</h2>
    <p>3月23日～25日の3日間</p>
    <p>
      春休みの期間を使って、神戸から東京までさまざまな各地域の学生が集まり、<br>
      学生総勢約40名の希望者が計10チームのフルオンライン制作イベントを実施しました。
    </p>
  </blockquote>
</body>
```



preformatted text

<pre> </pre>

整形済みテキストを表す

タイプ

ブロックレベル要素

包含

インラインレベル要素

整形済みテキストのブロックを表します。整形済みテキストとは、インデントや改行などで整形しているテキストのことです。pre 要素の中では、ブラウザのテキスト表示ルールが無効になり、エディタで入力された内容がそのまま画面上に表示されます。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <p>
    整形済みテキストとしてプログラムコードを表示する際には、<br>
    プログラム言語を表すcode要素と合わせてマークアップします。
  </p>
  <pre>
    <code class="language-javascript">
      {
        const slideItems = document.querySelectorAll( "#slide > .item" );
        slideItems.forEach(item, index, function(){
          item.setAttribute( 'data-index', index );
        });
      }
    </code>
  </pre>
</body>
```



contact address

<address> </address>

連絡先情報を表す

タイプ

ブロックレベル要素

包含

インラインレベル要素

個人、団体、組織の連絡先を提供していることを表しています。

address 要素で提供される連絡先情報は、あらゆる形の連絡先情報（住所、URL、メールアドレス、電話番号、SNS のアカウント、地理上の座標など）を含めることができます。

使用できる属性（この要素はグローバル属性を持ちます）

サンプル

```
<body>
  <p>連絡は下記よりお願いします</p>
  <address>
    <a href="mailto:helloecc@ecccomp.com">helloecc@ecccomp.com</a><br>
    <a href="tel:06-1234-5678">06-1234-5678</a><br>
    〒530-0015 大阪市北区中崎西2-3-35
  </address>
</body>
```



HTML エンティティ

HTML エンティティ（特殊文字コード）とは、「&」（アンパサンド）から始まり「;」（セミicolon）で終わるテキストのことです。エンティティは、通常は HTML コードとしてブラウザが解釈する予約済み文字や、スペースのような見えない文字を表示するためによく使用されます。

Point

多くの文字は覚えやすいエンティティとなっています。コピーライト記号のエンティティは「©」で、「<」（小なり）は「<」などになります。

予約済み文字

HTML で使用されるために予約されている特別な文字があります。ブラウザはそれら予約済み文字を HTML コードとして解釈します。例えば、「<」（小なり）記号を使用すると、ブラウザは文章をタグとして解釈してしまいます。これらの文字をテキストとして表示するためには、対応するエンティティに置き換えてください。

| 文字 | エンティティ | 説明 |
|----|--------|--------------------------|
| & | & | エンティティや文字参照の開始として解釈されます。 |
| < | < | タグの開始として解釈されます。 |
| > | > | タグの終了として解釈されます。 |
| " | " | 属性の値の開始や終了として解釈されます。 |

MDN Web Docs : <https://developer.mozilla.org/ja/docs/Glossary/Entity>

HTML Standard : <https://html.spec.whatwg.org/multipage/named-characters.html#named-character-references>